

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4790500062
法人名	特定医療法人 アガペ会
事業所名	グループホーム若松ぎのわん
所在地	〒901-2201 沖縄県宜野湾市新城1-20-6 (電話) 098-892-5104
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 20年3月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての 階 ~ 1階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	共益費 日額¥300円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (48,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.1歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北中城若松病院、ファミリークリニックきたなかぐすく、宜野湾記念病院、宮城医院、親川クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年3月の開所から1年も経たない中で、介護計画をはじめとする利用者ごとの記録、マニュアル等がきちんと整理され、管理者を中心に、職員と利用者の信頼関係が築かれている感じを受けた。大通りに面し、表は商店街、裏に入ると閑静な住宅街が広がり、立地的にも訪ねやすい環境にあり、毎日仕事帰りに訪ねる家族等、ほとんどの家族が1週間に1回は面会に訪れ、職員とのコミュニケーションも円滑に行われている。併設の認知症対応型デイサービスとの連携も良く、利用者全員が入所前のかかりつけ医を受診するなど、一人一人の意に添ったケアを心がけ、穏やかな暮らしが営まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初回評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての自己評価なので、管理者が職員へのヒヤリングを中心にまとめている。評価項目に準じて開所準備を進めた経緯もあり、自己評価を通してケアの再確認をすることができた。自己評価、外部評価を通して、改善課題を見出し、次年度の活動計画に活かすことで、改善への積極的な取り組みを全員で行っていただきたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3月に開所して、2ヵ月後の5月から2ヶ月に1回は定期的に開催しており、委員の出席状況も良好である。参加者からの具体的な提案や情報提供、アドバイス等も多くサービスの質の向上に活かされている。運営推進会議以外にも、役所へは電話や直接出向いて行くなど、積極的に関わっている。特に地域包括センターとの情報交換は頻繁に行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会者とは必ず話をしており、心身に変化があった際には随時電話で報告している。また、毎月の請求書に同封して、コメントを記した個々の写真や、ホームの行事等を写真入りで紹介した手作りカレンダーを送っている。玄関に設置された意見箱の活用はほとんど無いが、面会コメント票には多くの意見が寄せられ、全員に回覧している。毎日から週に1回と多くの家族が来所するので、そのときに意見を伺って運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の祭りや催し、保育園との毎月の交流会等、利用者と職員が積極的に参加している。家族を含め、近隣の方々の訪問も多い。児童の安全見守りや交通安全等の地域活動にはまだ参加していないが、今後の取り組みが期待される。現在のところボランティアの希望者は多いが、まだ受け入れは行っていない。今後は受入基準を定めて、利用者やホームにとって有効な活用をお願いしたい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内の地域医療センターの理念を基に、開所前に管理者を中心に同ホームの基本方針が策定され、家庭的な生活環境の中でその人らしい生き方の推進や、家族や地域社会とのつながり等を謳っている。まだ法人の了承は得られてないが、全員が集う食堂に掲げ、職員の日々のケアの拠り所になっている。	○	開所間も無いこともあり、現在まで基本方針がまだ(案)としてパンフレット等にも記載されているが、実質的には日々のケアはそれに添って取組まれているので、早急に確定して広く開示していただきたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任オリエンテーションで理念については教授し、毎日の朝礼では単に復唱するだけでなく、その実践に向けて、具体的な事例をあげながら、全員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の祭りや催し、保育園との毎月の交流会等、利用者と職員が積極的に参加している。家族を含め、近隣の方々の訪問も多い。児童安全見守りや交通安全等の地域活動にはまだ参加していない。	○	ボランティアの希望者は多いが、これまでまだ受け容れてはいない。今後は受入基準を定めて、利用者やホームにとって有効な活用をお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価なので、管理者が職員へのヒヤリングを中心にまとめている。評価項目に準じて開所準備を進めた経緯もあり、自己評価を通してケアの再確認をすることができた。	○	自己評価、外部評価を通して、改善課題を見出し、次年度の活動計画に活かすことで、改善への積極的な取り組みを全員で行っていただきたい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に開所して、2ヵ月後の5月から2ヶ月に1回は定期的開催しており、委員の出席状況も良好である。参加者からの具体的な提案や情報提供、アドバイス等も多く、サービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、電話や直接出向いて積極的にかかわりを持っている。特に地域包括センターとの情報交換は頻繁に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会者とは必ず話をしており、心身に変化があった際には随時電話で報告している。また、毎月の請求書に同封して、コメントを記した個々の写真や、ホームの行事等を写真入りで紹介した手作りカレンダーを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置された意見箱の活用はほとんど無いが、面会コメント票には多くの意見が寄せられ、全員に回覧している。面会は毎日から週に1回と、多くの家族が来所するので、そのときに意見を伺って運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動に関しては最大限に配慮しているが、年齢的に夜勤に対応できずに異動した職員がおり、利用者へはきちんとあいさつをして異動した。異動先が併設事業所なので時々訪れて交流しており、利用者へのダメージはほとんどないようである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や施設見学等、常勤、非常勤に関わらず、研修の機会を設けている。また伝達研修や個別の指導、年2回の人事考課の評価も含めてOJT(職業指導)への取り組みがされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宜野湾市のケアマネ協会の勉強会や法人内の研修、施設見学会等への参加を通して、ネットワークづくりやサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や隣接する認知症対応型デイサービスを利用しながら、ホームと馴染みの関係を作る等、利用者個々との関係作りから始めている。入所当初は職員が側に寄り添って不安解消に当たったり、家族にも電話や来所で協力をお願いするなど、対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花の栽培や料理、買い物等を通して、利用者から教わることも多く、ピアノを弾く利用者の伴奏に合わせて、みんなで歌うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやカンファレンス、センター方式の活用等を通して、一人一人の意向や希望の把握に努めている。特に面会時は積極的に家族から伺い、日々の利用者の訴えに関しては優先的に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望と利用者の思いを真摯に受け止め、異なる場合には調整して、担当職員を中心に全職員の気づきも交えながら、利用者本意の介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の見直しを行っているが、健康上、もしくは心身の状況をはかりながら、その都度家族の同意を得て、細やかなプランの変更に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には病院受診は家族が行うが、対応できない場合にはリフト車を出して送迎を支援している。また利用者の希望に添って、自宅訪問や買い物等、細やかに対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医との連携を密に保ちながら、休日や夜間等の対応には、家族の同意をいただいて、協力病院と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、法人で看取りの指針作りを急いでいる。具体的な取り組みは今後手がけるが、法人の訪問看護とは24時間体制で協力体制が取れている。	○	看取りの指針の策定と、家族の同意、具体的な医師や訪問看護との密な連携を取り、併せて、職員への研修も進めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心に配慮した声かけや、記録等の個人情報に関してはできる限りの管理体制をしている。	○	排泄の誘導や入浴等、親しい中でも高齢者を人生の先輩として敬い、特に排泄には、利用者にもみ聞こえる声かけするなど、羞恥心への更なる配慮をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の散歩を希望する利用者や、入浴へのこだわり等、1人1人の思いを尊重して、無理強いしないケア心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と昼食はホーム内で調理しているが、夕食の主菜のみは法人から配達されている。食材の買い物から下ごしらえ、配膳や片付け等は、本人の力や意思を尊重しながら手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	要望に応じて毎日、また夜間も8時までは職員が2人体制なので、入浴可能である。拒否の利用者には無理強いする事無く、本人の気持ちに寄り添いながら入浴を促している。浴室が狭いためシャワー浴のみだが、足浴と併用して温かく入浴ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	唯一の男性利用者にはお米の買い物をお願いするなど、プランターへの毎日の水かけや歌のピアノ伴奏、自宅訪問や買い物等、一人一人の力を活かした役割や、希望に応じて楽しめる支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	宜野湾市内の祭りや文化祭等の催しや、基地内のイベント、地域との交流等、積極的に戸外に出かける支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけないよう心がけている。ただし、中からは開くが外部からは開かないようし、街中に位置する環境上、安全性は考慮されている。夜8時以降は職員が夜勤者1名体制なので、施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	上階に大家がおり通報ベルも設置され、緊急時への協力をお願いしている。訓練前には近隣へもチラシを配布するなど、理解を求める努力をしている。近隣に住む職員がほとんどで、緊急時の応援体制を整えている。避難訓練は1回行ったが、職員のみでの訓練で利用者の実際の非難誘導はまだ行っていない。	○	消防訓練等では実際の利用者の避難誘導等の具体的マニュアルづくりや、近隣への協力依頼を日頃から行い、災害時に備える体制を構築していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患による体重コントロールが必要な利用者もいるが、受診時の医師の診断や、毎月の体重測定等で注意しながら栄養摂取に取組み、水分補給も小まめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るい室内は清掃も行き届いており、快適な空間作りがなされている。表札も利用者や家族の要望に併せて設置する位置を決めている。大通りに面したりビング側からはプランターやゴーヤー棚が見え、外部からの視線を遮ると共に季節感を楽しめる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやベッド、チェスト等、居室内はホーム側が設置したものを使用している利用者が多いが、使いなれたランプやテーブルセット等を持ち込んで居心地良く工夫している方や、職員が写してきた飼い犬の写真を壁に貼っている利用者もおり、それぞれに工夫している。		